

る。

7) 口腔癌に対するトモセラピーによる治療経験

○菊地 正浩¹, 小板橋 勉¹, 武田久仁美¹
三科 正見¹, 濱田 智弘², 金 秀樹²

(寿泉堂総合病院・歯科口腔外科¹, 奥羽大・歯・口腔外科)

【緒言】トモセラピーは照射野を局限して重要臓器の障害を最小限に抑えるための手法を用いた強度変調放射線治療 (IMRT) 専用器である。口腔癌は扁平上皮癌が多いため放射線治療が奏効しやすくトモセラピーの良い適応と考える。2011年2月の当院導入時から現在までの当科における実際の照射例について報告する。

【照射例】照射総数は4例 (舌1例, 歯肉3例) で, 診断名は全例扁平上皮癌であった。内訳は術前および術後照射が1例, 術後照射が1例, 術後再発に対する照射が2例であった。全例化学療法を併用し, 通常分割照射にて行った。

【結果】全例で部分寛解 (PR) の結果が得られた。放射線照射による有害事象としては, 口腔粘膜炎, 皮膚炎, 難聴, 食欲不振, 嚥下困難がみられた。全例で治療計画通り照射を行うことができた。

【考察】トモセラピーはIMRT専用器で, 従来の放射線治療器に比較して, 有害事象の出現頻度が低いといわれている。当科での治療経験からも有害事象の出現頻度も低く, さらに出現しても重症度が低く患者に対しても優れた治療器と考えられた。今回は静注および内服による化学療法を併用で良好な結果が得られたが, 選択的・超選択的動注化学療法を併用することによりさらなる治療率の向上が示唆された。

【結語】今回われわれは口腔癌に対してトモセラピーによる治療を経験し, 良好な結果が得られたので報告した。

8) スペシャルオリンピックスに参加してーその1 ボランティア活動の概要ー

○佐々木重夫, 福島 雅啓, 柴原栄一郎, 鈴木 厚子
田口 慎哉, 玉木 直哉, 長嶺 海保, 西村 翼
山崎 康彦, 島村 和宏, 齋藤 高弘, 高橋 和裕
大野 敬

(奥羽大・歯・附属病院)

【緒言】知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックス (以下, SOと略す) では, アスリート (知的障害者) 本人や関係者の健康に対する知識や意識を啓発することによってQOLの向上を目指すためのヘルシー・アスリート®・プログラムとしてスペシャルスマイルズ (口腔: 以下, SSと略す), ヘルシーヒアリング (聴力), ヘルスプロモーション (栄養・生活習慣), オープニングアイズ (眼科), フィットフィート (足のケア) およびファンフィットネス (理学療法) の6部門を開設しており, SO参加アスリートは競技期間中, 希望によって受診している。奥羽大学歯学部附属病院ではSOの趣旨に賛同し, アスリートのQOLの向上を目的として平成24年2月10日から12日に開催された2012年第5回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島大会にボランティアとして歯科医師を派遣した。

【方法】本学から参加した歯科医師は21名 (うち臨床研修歯科医師10名) で, 福島県歯科医師会, 郡山歯科医師会および東北歯科専門学校から参加したボランティアと協力し, 平成24年2月10日, 11日の2日間, 福島県猪苗代町体験交流館「学びいな」においてボランティア活動を行った。SSでの活動内容は受診アスリートの受付, 誘導, 歯科健診, ブラッシング指導およびギフト (歯ブラシ, 歯磨剤などのプレゼント) であった。

【結果】1. 2日間で9歳から46歳 (平均年齢23歳8か月) のアスリート137名 (男性107名, 女性30名) が受診した。

2. ヘルシー・アスリート®・プログラム6部門の受診者の合計は412名で, SSの受診者が最も多く, 33.3%を占めていた。

3. 歯科健診の結果, 1人平均の現在歯数28.4歯, 健全歯数23.2歯, 齲蝕歯数0.6歯, 修復歯数4.7

歯および喪失歯数0.4歯で、1人平均DMF歯数は5.6歯と健常者(20～24歳8.0歯:厚生労働省平成17年歯科疾患実態調査)と比較しても良好な値を示した。

【考察および結論】1. SSにおける受診時間は約10分～15分の短時間で終了することが、ヘルシー・アスリート®・プログラムの中で最も受診者が多いことに寄与していると思われた。

2. SOに参加し、ヘルシー・アスリート®・プログラムを受診することがアスリートの口腔内環境のみならず、健康維持に関与しているものと思われた。

9) スペシャルオリンピックスに参加して

—その2 ボランティア・スタッフの意識調査—

○佐々木重夫, 釜田 朗, 大桶 綾子, 金澤 朋昭
小嶋 忠之, 鈴木 翔, 角田 隆太, 福元 梨沙
三科祐美子, 渡邊 崇, 島村 和宏, 齋藤 高弘
高橋 和裕, 大野 敬
(奥羽大・歯・附属病院)

【緒言】奥羽大学歯学部附属病院では平成24年2月10日, 11日に福島県猪苗代町で開催された2012年第5回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島大会(以下, SOと略す)にボランティアとして参加し, 福島県歯科医師会, 郡山歯科医師会および東北歯科専門学校から参加したボランティアと共同で, 参加アスリート(知的障害者)に対するスペシャルスマイルズ(口腔部門:以下, SSと略す)において歯科健診やブラッシング指導などを行った。そこでSSに関与したボランティア・スタッフの知的障害者に対する意識を知る目的で質問紙調査を行った。

【方法】平成24年2月10日, 11日の2日間にSSに参加したボランティア・スタッフは20歳代から60歳代の男性34名, 女性36名の合計70名で, 職業は歯科医師(48.6%), 歯科衛生士(34.3%), 学生(12.9%), その他(4.2%)であった。知的障害者に対する意識調査には選択式10項目, 自記式3項目の質問紙用紙を用いて, SS終了後に調査した。

【結果】1. SO参加前に知的障害者に接した経

験がある者は57.2%存在したが, 経験がない者も42.8%認められた。

2. SOに参加することを楽しみとしていた者が60.2%であったのに対し, 不安を持って参加した者も35.9%認められた。

3. SO参加後は貴重な体験ができて楽しかったと回答した者が91.4%認められ, 90.0%の者がこのようなボランティア活動に参加したいと回答していた。

4. SO参加前の知的障害者へのイメージについては対応が難しいと回答した者が48.9%, また齶蝕が多いと回答した者も存在したが, 参加後のイメージの変化としてアスリート達の素直で明るい性格や良好な口腔内に触れたことによって好印象になったと回答した者が62.8%認められた。また, 健常者と変わらない, 特別視はいけないなどの回答も認められた。

5. SO参加前に知的障害者に対して心のバリアはなかったと回答した者が63.8%存在したが, あったと回答した者も33.3%認められた。また, 参加後の心のバリアの変化では少なくなったと回答した者が33.3%認められた。

【考察および結論】1. ボランティア・スタッフの多くの者はSOに参加することを楽しみとしていたが, 知的障害者に対しての接点がないために不安を持って参加した者も存在した。

2. SO参加アスリートの口腔状態や性格などの良好なキャラクターに接したことがボランティア・スタッフの知的障害者に対するイメージの改善や心のバリアの払拭に寄与したものと思われた。

10) 学習方法に関する学生と教員への同時アンケート調査—総合学習Ⅱ・Ⅲ—

○鈴木 史彦¹, 岡田 英俊², 茂呂祐利子³
前田 豊信⁴, 横瀬 敏彦⁵

(奥羽大・歯・口腔外科, 奥羽大・歯・生体材料,
奥羽大・歯・生体構造³, 奥羽大・歯・口腔機能分子生物,
奥羽大・歯・歯科保存⁵)

【諸言】学生を対象とした授業に関するアンケート調査は年度末に実施されることが多く, 改善点は次年度の学年に適應される。しかし, 年度内に学習方法に関するアンケート調査を学生と教員を